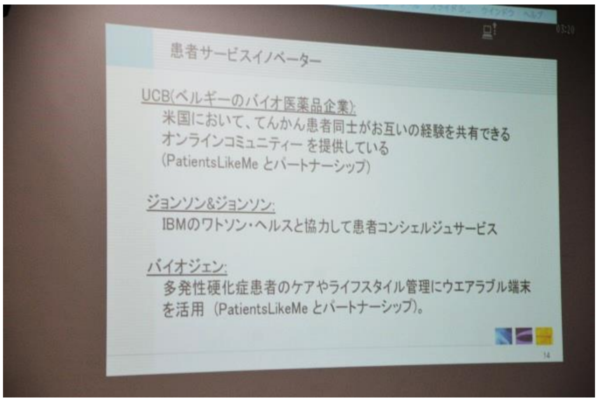
チャレンジ講座（文系第５回）を実施しました

10 月 17 日（水）に第５回文系チャレンジ講座が、本学経済学部の松岡輝美先生を講師に迎え、「ヘルスケア産業におけるサービスイノベーション」というテーマで行われました。

遠隔配信された国東、高田、大分西、臼杵、大分商業、大分鶴崎、安心院、別府翔青、大分雄城台、竹田、中津南及び来学の日出総合、大分東明、佐伯豊南の計 14 校 230 名が受講しました。

まず、サービスイノベーションの定義が述べられました。パンの包装を例にあげ、顧客、店側のメリットを踏まえた上で、具体的にサービスの違いが示されました。



さらに、岡野工業株式会社の痛くない注射の説明がされました。痛くないうえに、薬の投薬がスムーズに行われることや、糖尿病患者の方に使用されることが多いことが示されました。インスリンの純度で競いあっていたメーカーが、痛くないというサービスを付け加えることで、新たな付加価値で競うようになったと説明がありました。また、デザインを変更し、注射器のイメージを払拭する注射器もサービスイノベーションで出てきたことが説明されました。

また、血糖値を測定できるコンタクトレンズの例から、ヘルスケア産業ではなかった企業が参入していることも示されました。さらに、スマートフォンで血糖値を管理するアプリケーションも紹介されました。少しの唾液で溶ける薬の開発もされていることもわかりました。

イナビルの副作用の少なさや３Dプリンターでつくられた抗てんかん薬の説明もあり、服用出来たか調べることが出来る薬の開発も行われていることも示されました。

最後に、ヘルスケア産業におけるサービスイノベーションが病気になった人たちに大きな影響を与えていることが伝えられました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（77%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（95%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（97%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（34%）、「映像はよく見えた」（76%）という結果が出ました。受講生の主な感想として、「注射針や製薬メーカーの工夫がとてもすごいと思った」「新しい情報をたくさん得られて良かった」「相手を思う考えが生活をよりよくしていると分かった」といったものが寄せられました。